



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 60

R2.11.27

今月のキーワード

読み物教材の活用 (小学校) (中学校)

中学校3年生はいよいよ受験シーズンとなり、様々な模擬試験などテスト問題に取り組む時期になりました。入試等も控え、まとまった量の英文を読む機会が増えてきていると思います。今回は、新学習指導要領における【思考・判断・表現】の観点から、「読むこと」の指導について考えてみたいと思います。なお、小学校の教科書にも「読み物教材」のコーナーが掲載されています。小・中学校の指導をつなげていくためにも活用方法について一緒に考えていきましょう。

【小学校】読み物教材の活用 ★子どもとのインタラクション（やり取り）を中心に

小学校5、6年生の教科書には、読み物教材として Read and Act というページが位置付けられています。ここでは、“The Letter (by Arnold Lobel)” (小学校2年生の国語の授業で学習した『お手紙』) を使って、どのような展開ができるかを考えてみたいと思います。

○読む前

子どもの背景知識や既習事項を活用した質問を投げかけましょう。

What do you see? What is his name?

○読んでいる最中

感情を入れたり、ジェスチャーを使ったりして読みましょう。分かりにくい単語は繰り返したり、声の変化を付けたりすることで子どもは推測することができます。また、挿絵など言葉以外の情報は、内容理解の手助けとなります。

Toad is sad. Show me your sad face.

○読んだ後

理解を確かめる Q&A などを行いましょ。話のあらすじを確認する、選択肢を選ぶだけでなく、好きな登場人物を聞いて意見交流をすることも考えられます。細かい質問ではなく、子どもが英語で答えられる範囲で質問をすることがポイントです。

Who is your favorite character?



やり取りをしながら読み聞かせを行うことで、子どもにとってのリスニング活動になります。つまり、「読む活動」(読み聞かせ)を通して「聞く力」が育つことになります。

教材を上手く使いながら、楽しく効果的に指導していくことをおすすめします。





中学校学習指導要領の「領域別の目標」（読むこと）は次の通りです。 下線追加

- ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ウ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

P56 ページからの事例 2 には、読むこと【思考・判断・表現】の指導例が掲載されており、単元全体で「**必要な情報を読み取る**」「**概要を捉える**」「**要点を捉える**」活動が網羅されています。以下、単元計画例を紹介します。

単元計画（■ねらい）

- 1-2 時間目 ■教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝え合う。
- 3 時間目 ■教科書本文の要点を捉え、書き手の最も伝えたいことを伝え合う。
- 4 時間目 ■教科書本文の概要や要点を捉え、伝え合う。
- 5 時間目 ■教科書本文全体のテーマについて自分の考えなどを伝え合う。
- 6 時間目 ■意見文を読んで、概要や要点を捉え、自分の感想や考えを伝え合う。

例えば、4 時間目のねらいを達成させるために

- ・概要を捉えるために、本文内容を表にまとめたり、マッピングを作成したりする。
- ・要点を捉えるために、各段落にタイトルを付けて比較する。

といった言語活動が紹介されています。



ダウンロード可能



概要を捉える場合には、5W1Hを意識しながら読ませる、
 要点を捉える場合には、So, Therefore, In conclusion など結論を表す語句に着目して読ませるなど、読み取る内容に応じた指導が大切です。



日々の授業の中で教科書本文の内容理解に終始していないかどうか、教科部会などの場で見直しをお願いします。書かれている文章等を読んで、その内容を理解することができるかどうかの評価は【知識・理解】の評価となります。

文責 学校教育課 稲葉亜希恵

